

# 『Mind Charging』

第 196 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 25 日

## 石川祐希の名言



自分のやりたいと思うことを伝えることができるようになりました。  
ただ、口論になっては意味がありません。

アスリートとして『追求する』という強い意欲を感じる言葉です。石川選手の名前はバレーボール部員以外でも聞いたことがあると思いますが、現在の日本のバレーボール界におけるスーパースターの存在です。高校時代に“春高バレー”で一気にその名を全国にとどろかせ、中央大学に進学。大学在学中からイタリアにバレー留学、日本代表入りを果たします。大学卒業後はイタリア『セリエA』に所属してさらなる飛躍に向けて挑み続けています。

この言葉にあるように、石川選手が日本代表入りしてから特に選手間で積極的に会話をしているシーンが増えたように思います。私はバレーボールに携わる者として、『アスリートのコミュニケーション能力』についてはサッカー選手に最も感じていました。インタビューでの受け答えなどにも表れており、昨今のサッカー事情から“海外組”と呼ばれる選手が増えたことがその大きな要因だと感じています。様々な国や地域から集まった競技レベルの高いアスリートが切磋琢磨する中で、“大人しい”と言われる日本人にとって難しい問題かもしれません。しかも海外では日本のような“オブラートに包む”といった部分もゼロに等しい状況の中で、コミュニケーション能力が低いことはマイナスでしかありません。おそらく当初は苦労したことでしょう。そして、言語のみならず、気持ちを伝えることができた時には大きな達成感を得られたと思います。

そういう意味では石川選手はバレーボール界に技術以上の貴重な材料を持ち帰ってきてくれたと言えます。また、コミュニケーション能力を養成する方法は日本を飛び出して海外で挑戦するということだけではなく、国内でも日本人のみの組織内でもできるはずで、そして、正智深谷高校の中でもできるはずで、みなさんの力でコミュニケーション能力を育む学校にしていきたいでしょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

石川 祐希(いしかわ ゆうき、1995 年 12 月 11 日 - )は、愛知県岡崎市出身の日本の男子バレーボール選手。妹の石川真佑も同じバレーボール選手であり、東レ・アローズに所属している。(Wikipedia 参照)